

農業用水の濁りを踏まえた今後の水稻管理作業について

1 育苗のかん水に用水を利用する場合の留意点

- ①降雨日やその翌日など、用水の濁りが強い場合は、用水の使用を控えて下さい。
- ②ゴミや泥の吸い込みをできる限り防ぐため、ポンプの吸水口をカゴに入れて、洗濯ネットや寒冷紗などの目の細かな網で覆って下さい。(図参照)。

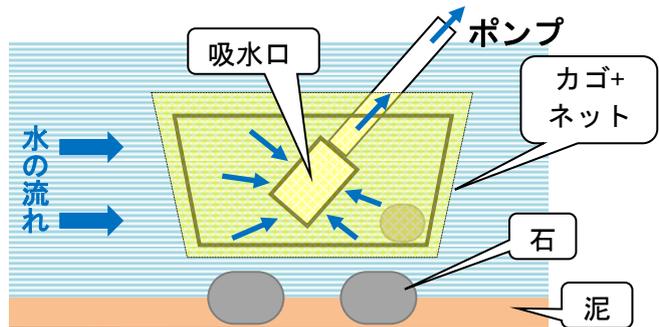


図 ゴミ・泥を吸い込みにくい吸水方法 (例) カゴの下に石を置くなどし、ネットの表面積を大きくすることがポイント

- ③濁りが強い時ほど吸水口の目詰まりが早いことに注意し、吸水口が目詰まりしないようにこまめに掃除して下さい。また、あらかじめ用水の濁りの程度とフィルターの掃除のタイミングを把握しておいてください。

《参考》手取川の汚濁水によるかん水が水稻育苗に及ぼす影響 (H27. 11. 20 農総研)

- ・育苗床土に濃度の異なる懸濁物質を含む用水をかん水したが、床土のpH、ECともほとんど変化がなかった。
- ・育苗箱に実際の汚濁水をかん水したが、かん水量にかかわらず床土のpHは水道水と同程度であった。

2 本田への入水時の留意点

- ①田植後、降雨日やその翌日など用水の濁りが強い場合は、入水を控えてください。特に田植後間もない時期は、ほ場内に土砂が流入するとイネの埋没や鉄欠乏を招く可能性があるため、注意して下さい。
- ②入水時に用水をせき止める際は、せき止板を3cm程度浮かせて設置して下さい。
- ③水稻除草剤を使用する際は適期を逃さないよう、本田にあらかじめ入水しておき、泥を落ち着かせてから散布して下さい。

《参考》手取川汚濁水の水田への流入土砂の成分分析結果と留意点 (H27. 6. 10 農総研)

- ・水田への流入土砂は砂が主成分で、県内の砂丘畑と同程度の成分。
- ・流入土砂のpHは7.7~8.6と指針に比べやや高いが、収量に影響が出るような生育障害は発生しない。
- ・用水のpHは7.5で、H26年同時期とほぼ同等(7.6)であり、本田に入水しても問題はない。